

概要

- 各団体において、若者や女性の県内定着・回帰、暮らしやすく活力ある地域づくり、多様な人材の活躍促進等に向けたアクションを展開。
- 経営者の意識改革や、働く女性のネットワーク化、デジタル活用、地域や他団体との連携など、それぞれの課題を踏まえ、様々な取組みを実施していただいているところ。
- 多くの団体で、今後に向けても取組みの強化や新たなアクションを予定。

団体名	具体のアクション
山形経済同友会	【目的】 未来に向けて持続可能な地域にしていくため、経済社会の発展や地域の構造的課題の解決に向けたチャレンジの推進 【アクション】 テレビ番組「提言の広場」による発信、観光振興による持続的成長への提言、企業と教育の連携に向けた取組みの推進 など
山形県経営者協会	【目的】 経営者の意識や行動の変容による若者や女性が活躍しやすい職場環境整備の促進 【アクション】 経営者や管理職を対象としたトップセミナーの開催（R7年7月）、女性リーダー交流会の開催（R8年3月予定） など
山形県商工会議所連合会	【目的】 若者に選ばれる企業になるための経営者の意識改革、産業人材の確保・育成、地元就職の促進 【アクション】 Z世代採用に向けた特別講演会の開催（R7年9月）、高校2年生対象のジュニアインターンシップの実施（R7年7月） など
山形県商工会連合会	【目的】 AIの活用による効率的な事業者支援、県内企業におけるDXの促進 【アクション】 全国初となる全24商工会への経営支援生成AIシステムの導入（R7年7月）、AIを活用した経営支援の充実・強化 など
山形県中小企業団体中央会	【目的】 地域産業の振興、働く場の創出、人材定着のための取組みの促進 【アクション】 人口急減地域の人手確保に資する「特定地域づくり事業協同組合」の設立支援、職場づくりに係るセミナーの開催 など
山形県工業会	【目的】 若者の県内定着の促進 【アクション】 山形大学工学部の学生への県内産業の現状に係る説明会の実施（R8年3月予定）、学生の意識やニーズ調査の実施 など
やまがた産業支援機構	【目的】 働きがいのある職場の創出、さらなる女性の活躍の促進 【アクション】 女性目線で職場づくりを勉強する「ものづくり女子会」の立上げ（R7年7月）、順次新たな地域での工場視察や交流会の開催 など
山形県観光物産協会	【目的】 業界の人材確保・育成と定着、労働環境の改善、地域の魅力創出、持続可能な観光の実現 【アクション】 業界内の課題把握のためのアンケートの実施（R7年11月～12月）、若者や多様な人材を巻き込むプラットフォームの新設 など
山形県建設業協会	【目的】 建設業に携わる女性のさらなる活躍、将来の技術者の確保 【アクション】 村山地域的女子高生や中学生等を対象にしたツアーや意見交換会の実施（R7年8月、10月）、順次新たな地域でも開催 など
山形県農業協同組合中央会	【目的】 人口減少下における安全・安心な農畜産物の安定的な供給 【アクション】 スマート農業技術の導入支援、地域営農法人での実務実習による新たな担い手の育成、アプリを使った農繁期の働き手の確保 など
山形大学	【目的】 高等教育機関と地元の産業界や金融界、医療界や自治体の密接な連携の推進による地域課題の解決や新たな価値の創出 【アクション】 連携強化を目的としたシンポジウムの開催（R7年11月）、地域産業のコア人材育成に向けたリカレント教育の実施 など
山形県立保健医療大学	【目的】 県内医療を支える人材の育成及び県内定着の促進 【アクション】 キャリアセンターの体制・機能の強化、SNS開設による卒業生への採用情報の提供、卒業生のUターン就職に関する相談対応 など
米沢栄養大学 米沢女子短期大学	【目的】 大学の魅力発信と地域との接点づくりの強化により、学生の獲得と県内定着、地域活力の向上に貢献 【アクション】 地域課題解決型ワークショップや地元企業との商品開発など地域に関わる学びの提供、学生による地域活動の実施及び発信 など

団体名	具体のアクション
東北芸術工科大学	【目的】 リカレント教育への参画・学生の県内居住による関係人口の創出 【アクション】 実践型クリエイティブ教育の実施、食文化デザインコース等新設による“山形産”次世代人材の育成 など
東北公益文科大学	【目的】 地域の活性化と課題解決に向けて、新たな価値を見だし、共に創造していく起業マインド（アントレプレナーシップ）の育成 【アクション】 国際学部新設を契機としたグローバルな視点での育成、公益大生による高校生向けアントレプレナーシップの伴走支援 など
東北文教大学	【目的】 地元に就職し活躍する人材の育成による地域の人口増加と活性化の促進 【アクション】 県内企業の協力によるインターンシップの実施、県内企業の魅力を考える県内企業研究会の充実 など
山形県私立学校総連合会	【目的】 地元愛の醸成に向けた、地域の大人と高校生との接点づくりなど各校の特色ある取組みの促進 【アクション】 行政・政治と関わる活動への参加、地域の祭りや地域活動等への参加 など
山形県PTA連合会	【目的】 家庭・学校・地域が連携した教育環境の整備による社会の発展への貢献 【アクション】 ウェルビーイング向上や郷土愛の醸成などをテーマとした研修大会の実施（R8年度予定） など
山形県銀行協会	【目的】 企業の成長支援、後継者不足や人手不足等の課題解決に向けた支援を通じた地域経済の持続的発展 【アクション】 事業承継支援、人材紹介・マッチング、生産性向上などに向けた地域企業へのコンサルティング等の実施 など
日本労働組合総連合会 山形県連合会	【目的】 人材確保や地域活性化など様々な課題を有する人口減少問題への対応・連携 【アクション】 労使共同のフォーラムやパネルディスカッションの実施（R8年度予定） など
山形県医師会	【目的】 地域医療提供体制の維持・充実による、県民が県内で安心して暮らせる環境づくりの推進 【アクション】 各医療機関のWLB施策を一元化したデータベースの構築（R8年度予定）、医業承継マッチングサイトの周知強化 など
山形県社会福祉協議会	【目的】 孤独・孤立を防止する地域共生社会の実現 【アクション】 行政・民間の社会福祉職員による地域の孤独・孤立を防止するための会議の開催（R8年2月） など
山形県シルバー人材センター 連合会	【目的】 女性会員の拡大による高齢者の就業の幅の拡大と女性会員の元気の地域への還元 【アクション】 女性会員拡大に向けた広報誌「やまがたシルボンヌネットワーク」の発行、女性会員の交流会の実施（R7年11月） など
山形県男女共同参画センター	【目的】 多様な生き方や働き方で、誰もが自分らしく輝くことができる山形県の実現、アンコンシャスバイアスの解消 【アクション】 男女共同参画の意識啓発を図る推進員の学校や地域への派遣、派遣先として企業・事業所などへ拡大 など
山形県国際交流協会	【目的】 県内に住む外国出身者と地域住民との交流の拡大、互いに住みやすい多文化共生社会づくりの推進 【アクション】 県内在住外国出身者と県内高校生との交流会の実施、交流の地域住民などへの拡大 など
山形県議会	【目的】 若者による山形県の魅力の再発見 【アクション】 「魅力的な企業」や「山形で暮らすことの魅力」をテーマに、若者・女性との意見交換の実施 など
山形県市長会	【目的】 若者の地元定着、地元で働く女性のさらなるキャリアアップに向けた取組みの推進 【アクション】 若者・女性の定着促進ワークショップの開催(山形市)、「日本一女性が働きやすいまち」に向けた取組みの推進（酒田市） など
山形県町村会	【目的】 協働するまちづくり、移住定住・ふるさと回帰など、各町村における持続可能な地域づくりの推進 【アクション】 ミニティ活動支援員の派遣、まちづくり委員会の開催、移住定住促進コネクターの設置、持続可能な地域づくりセミナーの開催 など

1 目的・狙い

- ふるさと山形の美しい自然と文化を愛し、それを守り育て、精神性の高い潤いのある地域社会づくりに向けて、理想実現のため経済社会の発展に貢献するとともに、地域の構造的課題にも主体的に取り組み、県政発展のために、「山形愛」を世界へ、未来へ届けることを目的とする。

2 取組内容

1 『県政懇談会』の活用

- ・ 定例行事である「県政懇談会」を年間4～5回開催し、その中で未来共創についての県の方針を知事から直接お聞きした上で、意見交換をしたい。

2 テレビ番組『提言の広場』の制作活動

- ・ 人口減少問題を基本テーマとし、県民・産学官の共創により本県の明るい未来を拓くための方策を様々な切り口から提言したい。

3 観光振興による山形の未来共創への提言

- ・ 2026年は山形県の観光が世界的に脚光を浴びる年となることから、「観光振興による山形県の持続的成長」を令和8年度の基調方針に盛り込み、委員会事業の中で取り上げ、提言したい。

4 経済団体・企業として学校教育と連携・共創

- ・ 県教育委員会の提唱する『教育支援パートナーシップ推進事業』に賛同し、会員企業が『やまがた教育パートナーズ』の認定を受けて事業所見学、就業体験、体験学習、講師などで学校教育に参加するよう働きかけたい。
- ・ やまがたAI部への参画、活動支援を継続し拡充したい。会員企業に参加を呼び掛けたい。
- ・ 教育の共創を令和8年度の基調方針に盛り込み、委員会事業の中で取り上げ、提言したい。

3 効果・今後の展望

持続可能で明るい山形県の未来に向け、前向きな理念やビジョン、提言の発信をさらに強化していく。



県政懇談会



2022明るい山形MVP賞
「やまがたAI部運営コンソーシアム」



毎週土曜 7:30～山形テレビで放送中



1 目的・狙い

- 経営者や管理職の意識と行動を変え、若者や女性が活躍しやすい持続可能な職場環境を推進することで、企業の採用力及び定着率を向上させるとともに、地域の雇用の安定化を通して人口流出の抑制に貢献することを目指す。

2 取組内容

(1) やまがたトップセミナー（実施済）

- ①日時／会場 令和7年7月11日／パレスグランデール
- ②参加者 経営者、管理者等 339名
- ③内 容 右上部のとおり

(2) やまがた女性リーダー交流会

- ①日時・会場 令和8年3月4日／ホテルメトロポリタン山形
- ②参加者 管理職及び管理職候補の女性社員 約30名
- ③内 容 ・女性のキャリア形成に関連した基調講演
・異業種交流会

3 効果・今後の展望

- トップセミナーのアンケート結果では、「満足」「どちらかといえば満足」が98.4%となった。
- 女性リーダー交流会については、リーダーのグループ化を試み、来年度以降も開催を計画している。今後も、若者や女性にとって魅力ある働き方を促進するため、経営者の意識改革に取り組んでいきたい。

令和7年度

やまがたトップセミナー

第1部：基調講演

山形県の人口の未来は「経営者」が守る
—情動論から脱却し、県民オールで攻めの山形へ—

講師 (株)ニッセイ基礎研究所生活研究部
人口動態シニアリサーチャー 天野馨南子氏



第2部：パネルディスカッション

テーマ「女性や若者から選ばれる企業になるために」



開催日時：2026年3月4日(水)
15:30~19:10
(受付は15:00から開始)

対 象：女性管理職及び管理職候補の女性社員 **30名**

会 場：ホテルメトロポリタン山形
3階 出羽
(山形市香澄町1丁目1-1)

講演会：無 料

交流会：6,600円(税込み)
(交流会終了後、請求書をお送りいたします)

申込方法：2月20日(金)まで
裏面の申し込み用紙でFAXにて

休 憩
交流会 (17:30~19:10)
講師を交えた参加者同士のネットワーキングタイム・立食buffet方式で自由に交流。
お互いの立場や視点を共有し、新たなつながりや可能性を見つけましょう。

プログラム 受付 15:00~15:30
講演 15:30~17:10

講 師
元ANA取締役専務執行役員
河本 宏子氏

経 歴
1979年に同志社大学卒業後、全日本空輸株式会社に入社。1986年ANAが定期国際線試験開始時に、伊丹から成田空港に異動し、国際線業務に携わる。1999年にキャビンマネージャーに昇格。客室部門で人材育成・機内サービス品質管理・ブランド戦略等にかかわり、2013年から役員となり経営に参画する。2016年度まで取締役執行役員として女性活躍をはじめとするD&D推進を担った。現在は、東日本旅客鉄道株式会社、三井住友トラストホールディングス、キャノンマーケティングジャパンの社外取締役、新国立劇場運営財団の理事等を勤めている。

演 題
「わたしのキャリア形成」(仮)

1 目的・狙い

○企業経営者の意識改革

若者に選ばれる企業になるための人材確保策や経営戦略の普及啓発を図る。

○産業人材の確保・育成と地元就職の促進

小中学生、高校生・大学生に対し、地元企業の魅力や仕事のやりがいに触れる機会（キャリア教育・インターンシップ等）を創出するとともに、学校・保護者・企業間の連携を強化し、相互理解を深めることで、若者の「知る・気付く」を促し、県内定着を図る。



2 取組内容

【山形商工会議所の主な取組み】

(1) 特別講演会の開催（令和7年9月）

㈱ニッセイ基礎研究所人口動態シニアリサーチャーの天野馨南子氏を招聘し、「Z世代の若者を採用するための人材戦略」～山形の人口動態が示す経営者必携の知識～と題して会員事業所を対象に講演会を開催。

(2) 雇用対策事業の実施（令和7年7月）

地元定着率向上を図るため、高等学校の進路指導主事等と地元企業の採用担当者による採用情報交換会の実施。

(3) ジュニア・インターンシップ事業の実施（令和7年7月～8月）

市内の高校2年生を対象に企業に半日から数日間のインターンシップを行い働く意義や地元企業への就職意識を高め、翌年の地元就職率向上を図る。

【その他の商工会議所の主な取組み】

(4) ～未来への歩み～地元の企業を知ろうプロジェクトの実施（令和7年10月）

市内中学2年生を対象に、地元企業の仕事内容と、その魅力を体感することを目的とした企業PR事業を実施し、職業や進路についての意識醸成、地元就業に対する興味関心を高める。（天童）

(5) 高校3年生模擬面接会の実施（令和7年8月）

会員事業所の人事担当者が面接官を務めて、個人面接指導会を実施。（酒田）

(6) 保護者向け企業紹介パンフの制作、大学生向け産業講座の実施（令和7年度）

鶴岡高専4年生の保護者に対して、会員企業の事業内容や各種情報を掲載した冊子を制作配布し、地元就職意欲の向上を図る。また、山形大学農学部生を対象とした地域産業や地元企業についての理解促進を図る講座を実施。（鶴岡）

3 効果・今後の展望

生徒や親が地元企業を知る機会を増やし、地元魅力的な企業が少ないという認識を変えていくことができた。今後は、若者に選ばれる企業になるための経営改革を促進するとともに、若者のシビックプライド（地域を愛しより良くするため地域に貢献していこうという思い）の醸成に向けた取組みを強化していく。

1 目的・狙い

- AIの活用による効果的な事業者支援の推進と県内事業者のDX化の促進

2 取組内容

(1) 経営支援生成AIシステム「Ai助」を全24商工会に導入（令和7年7月）

全国の商工会連合会で初めて、県内全24商工会にシステムを導入。導入にあたり、操作や具体的な活用方法に関する研修会を6回開催。経営指導員等126名の職員は既に業務で活用中。

(2) 導入の効果

① 「販路開拓の助言」

中山町の「すももワイン」販売事業者は、これまで地域住民が多く訪れる温泉施設や産直施設など、地元客を対象とした販売が中心であった。新たな販路を求め、Ai助を活用してワイン市場の動向や競合状況を分析し、経営指導員とともに県外需要やオンライン販売の可能性を検討した。その結果を踏まえてネット販売を強化したことで、県外客向けの売上が伸びつつある。

② 「申請書作成支援」

小規模事業者持続化補助金の申請では、事業者が手書きした申請書をAi助で読み取り、浄書を行うとともに、要件の不備を洗い出し、改善点を経営指導員と一緒に確認・支援することで、申請内容の質を高め、採択される可能性を高めている。
(※Ai助は、中小企業の経営指導に特化しており、事業者の機密を保ちつつ、事業者や経営指導員の相談役として機能)

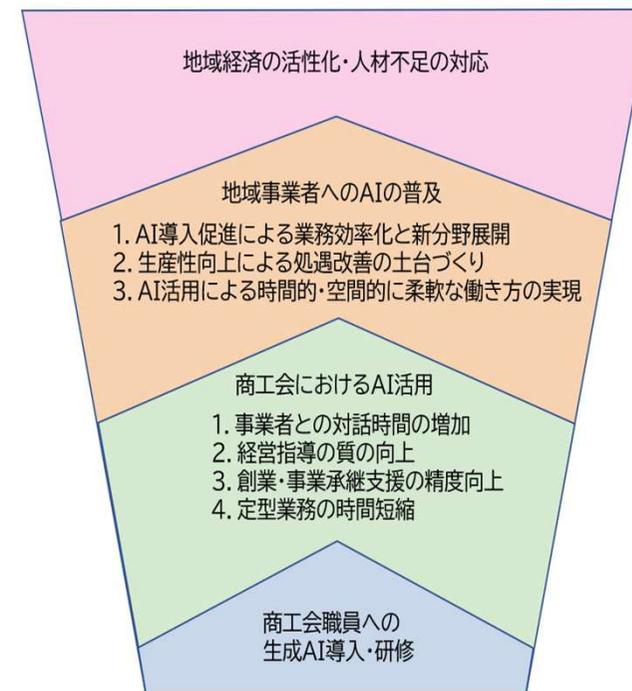
3 効果・今後の展望

- 事業者は、生産人口が減少する中でAIという経営の相談役を得て最適な戦略を立案・実行し、人手不足を補うことが可能となる。
- 商工会は、AIの活用によりデスクワークが効率化され、経営指導員等の現場力の向上と柔軟な働き方の拡大が期待される。

<今後の展望>

AI活用により個社ニーズに応じた経営支援の充実強化を図るとともに、地域事業者へのAIの普及などDX化を促進していく。

AI導入でめざす地域経済活性化の姿



生成AI「Ai助」を活用した経営支援



1 目的・狙い

- 中小企業組合への支援を通じて、地域産業の振興と働く場の創出を図り、移住・定住の促進、人口減少対策の一助とする。
- 県内中小企業組合および組合員企業が行う働きやすさの向上と人材定着のための主体的な取組を支援し、県内企業の発展に貢献する。



2 取組内容

(1) 「特定地域づくり事業協同組合」の設立・運営支援

- ・ 「特定地域づくり事業協同組合」は、組合が主体となりマルチワーカーを雇用し組合員事業者へ派遣する仕組み
本制度活用により、安定した雇用環境を整備することで働く場の創出、移住・定住の促進、地域事業の維持・拡大を推進
- ・ 同組合組織の設立支援および運営に係る伴走支援を実施
- ・ 移住・定住の促進や地域産業の振興に資する経営課題の整理・解決に向け、個別相談・個別支援を展開

(2) 「企業組合」の設立・運営支援

- ・ 女性の起業や少人数でのスタートアップのための組織形態として、企業組合制度の普及促進を実施
- ・ 設立から運営まで継続的な支援を通じて、企業組合の事業経営をサポート

(3) 働きやすい職場づくりに向けた支援

- ・ 中小企業組合・組合員企業を対象に「働きやすく人材が定着する職場づくり」に関するセミナーを開催
- ・ 職場環境や人材確保に関する個別課題の解決に向け、専門家派遣をはじめとした伴走支援を実施

(4) 女性活躍推進・子育て両立支援の普及啓発

- ・ 「やまがたスマイル企業」「くるみん」制度等、働きやすさと子育ての両立に資する各種制度の周知



3 効果・今後の展望

- 「特定地域づくり事業協同組合制度」および「企業組合制度」の普及促進をはじめ、設立・運営・課題解決に向けた継続的な支援を実施していく。
- 働きやすい職場づくりに関するセミナー開催による普及啓発や各種制度の周知活動を継続的に実施していく。
- 職場環境の整備や人材確保など個別具体的な課題解決に向けた専門家派遣等の支援事業を通じ、県内中小企業組合・組合員事業者の「働きやすく人材が定着する職場づくり」を促進していく。

1 目的・狙い

- 山形大学工学部の総合型選抜Ⅱの合格者の学生を対象に、将来就職し生活していくであろう山形県についてより理解を深める。

2 取組内容

県内の産業の現状等についての説明会の開催

■令和7年度予定

①日時・会場 ※オンライン開催

令和8年3月4日（水）13時30分～15時30分

②参加者

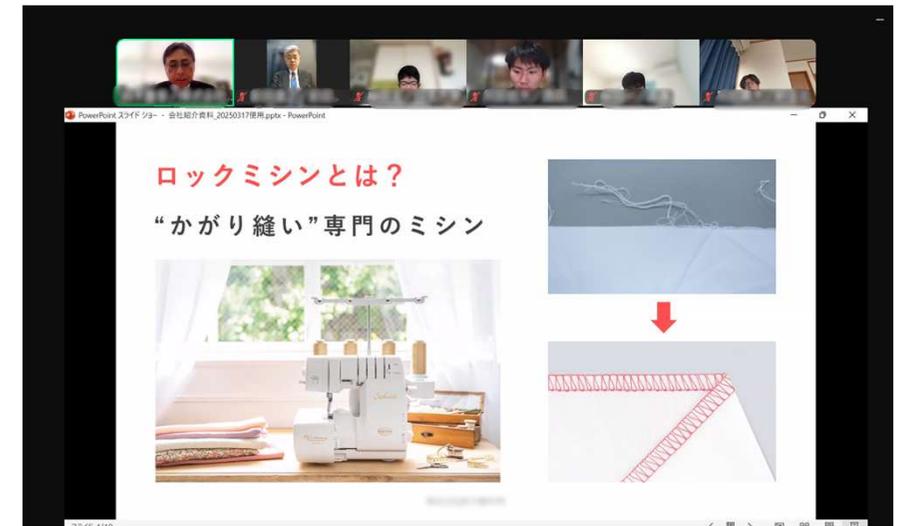
県内出身の山形大学工学部令和7年度総合型選抜Ⅱ入学者及び令和8年度総合型選抜Ⅱ入学予定者、山形県工業会会員企業4社予定、山形県工業会事務局

③内容

各企業から業界及び企業の概要と現状、学生の皆さんへ期待することや今後の心構え、大学で学んでもらいたいことについて説明し、山形県の産業についての理解を深める予定。

3 効果・今後の展望

- 今後新たに、山形大学工学部総合型選抜Ⅱ入学者及び入学予定者を対象にアンケート調査を実施し、将来の働き方に関する考え方や県内企業に期待する内容、さらに詳しく知りたい事項等について把握することで、学生の意識やニーズを調査していく。



1 目的・狙い

- 県内製造業における女性社員同士のネットワーク構築
近年製造業は現場改善活動や企業ブランディングのほか、SNSを活用したPR活動が盛んであり、女性活躍の場が増えている。活躍する女性社員同士のネットワークを構築し、他社の技術や企業活動を学び知見を深めることで、業界の魅力を共有し働きがいのある職場を創出し、新たな女性活躍を促す。



2 取組内容

【第1回ものづくり女子会】

- ①日 時：令和7年7月22日 13:00～16:30
- ②会 場：鶴岡市内の製造業3社
- ③参加者：機械要素技術展山形県ブースに出展した県内製造業に従事する女性社員より募集（10社17名参加）
- ④内 容：女性社員の案内による工場視察及び会社説明会、懇親会を開催。



3 効果・今後の展望

- 初めて同業他社を見学する女性社員が大半であり、視察会・懇親会では活況に意見交換がなされた。
- 多くの参加企業がSNSで本会の様子を発信することで、業界の認知度向上にもつながった。
- 「悩み解決へのアドバイスをもらえてよかった」「自社の強みと弱みに気付いた」という声があるなど、女性社員のネットワーク化に加え、誰もが働きがいのある職場の創出等の効果が期待されるため、順次新たな地域で開催していく。

1 目的・狙い

人口減少が進む中、観光や物産業界等における人材の確保・育成と定着、労働環境の改善、生産性の向上、地域資源の再活用と魅力創出、持続可能な観光（サステナブルツーリズム）等の実現を図るため、これまで行ってきた人材育成のための事業を継続強化するとともに、現在の業界における課題等を把握し、新たな取り組みを検討していく。

2 取組内容

【実施している取組み】

山形観光アカデミー事業 ☛ 新入社員等若手社員を対象としたおもてなし基礎講座及び経営者層を対象としたトップセミナーの実施

【新たな取り組みを行うための情報収集】

1 アンケート調査

- ①時期：R7.11.26～12.5（10日間） 対象：当会員（465団体、回答114団体、回答率 24.5%）
- ②調査項目：人手不足の現状・課題、経営強化施策及び認定制度（女性活躍等）の取組状況 等
- ③調査結果：60%が人手不足を実感。宿泊、旅客輸送、飲食店では人手の確保に苦労
 - ・人材不足の要因☛ 給与／待遇面、業界全体のイメージ、労働時間／シフト体制 などの課題
 - ・人材確保には ☛ 賃金向上、休日・休暇や福利厚生充実、職場環境の改善、経営強化 …
 - ※ 人材確保を実現するためには「経営強化」がベース
 - ➡ 商品の高付加価値化、DXによる業務効率化、外国人旅行者対応等を強化
 - ・協会に望む研修・セミナーのテーマ ☛ 若者・女性の人材定着のための研修の場の提供

2 業界団体のヒアリング（宿泊、旅客輸送、物産・立寄施設 の代表）

- ・高付加価値化（単価が上がることで少人数接客でも高い利益を確保、人手不足の緩和になる）
- ・DXの推進（自動チェックイン導入などデジタル活用で省人化・サービスの維持）
- ・人口流出対策の根本は「教育」による地域愛を醸成すること。幼児期から、地域の自然・文化などの魅力を「楽しい体験」として伝える教育が重要。
- ・若者の活躍する場の環境整備
- ・多様な人材が活躍できる職場づくり（休日・休暇や福利厚生充実など）
- ・協会には、「山形県の魅力」を学ぶ研修会や外国人材活用の優良事例を学ぶセミナーを希望

3 効果・今後の展望

アンケート・ヒアリング調査結果を踏まえた取り組み

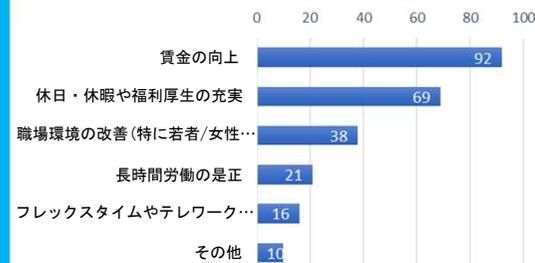
- ①人手不足緩和や人材定着につながる研修会やセミナーを開催し、経営強化策や多様な人材の活用事例を学び、各事業者が実践することで人材定着につなげていく。
- ②若年層などを中心に、山形の観光プロダクトの商品化を支援するプラットフォームを新設し、観光分野における起業を促すなど、若者の活躍の場や働く機会を創出していく。

人口減少(人手不足)を踏まえた取組みに関するアンケート調査結果

現在、人手不足を感じていますか？



人材確保のために必要だと考える取組みについて教えてください。(複数回答可)



人口減少が進む中、経営強化のために特に力を入れて実施している取組みについて教えてください。(複数回答可)



人手不足緩和や人材定着につながる研修会・セミナー（経営者層向）

- ①高付加価値化／DXの推進
- ②女性・若者・外国人材活用の優良事例を学ぶ／活躍支援制度の紹介

プラットフォーム新設（若者を中心とした観光に関心のある者向け）

- ・地域DMO等と連携し、多様な人材を巻き込み、ワークショップや実践型プログラムを通じて、山形の観光プロダクトの商品化を支援するプラットフォームを新設
- ・観光分野での魅力ある働く場を創出するとともに持続可能な観光地域づくりを推進

1 目的・狙い

- 建設業に携わる女性の更なる活躍や就業促進のため、建設業で働く女性の活躍や魅力を伝えていく
- 建設業に携わる技術者などの確保のため、中学生の進路選択の一助として、建設業で働く魅力を伝えていく

2 取組内容

■ けんせつ女子ツアー&カフェ

- ①令和7年8月4日（月）に、山形市内の馬見ヶ崎川河川改修工事を視察し、市内のホテルを会場に意見交換会を行った。
- ②県内の女子高校生等9名と建設業協会女性部16名が参加した。
- ③テーマは、建設業で働く女性から、具体的な体験談などを伝え、建設業に関わる魅力などを伝える。

■ 中学生建設ツアー

- ①令和7年10月13日（月）に、大久保遊水地工事現場ではICT建機を体験し、山形空港滑走路では重要な社会資本の役割などを体験した。
- ②県内の中学生と保護者あわせて33名が参加した。
- ③テーマは、建設業の魅力や社会資本整備の重要性などを伝える。

3 効果・今後の展望

- けんせつ女子ツアー&カフェでは、「自分の将来に役立つ情報が得られた」「具体的な体験談を聞くことができた」などの声があり、中学生建設ツアーでは「普段入れない所を見学できた」「本物の重機に乗る貴重な体験ができた」などの声があり、建設業の魅力を伝えることができた。
- 令和7年度は、村山地域での開催となったが建設業の魅力の裾野を拡大するため、今後、最上・置賜・庄内地域での開催を検討している。

■ けんせつ女子ツアー&カフェ



現場視察

意見交換



■ 中学生建設ツアー



大久保遊水池

山形空港



1 目的・狙い

- J Aグループの使命は、安全・安心な農畜産物を安定して提供しつづけることであり、担い手が減少するなかで、いかに農地を維持していくかが大きな課題となっている。
- この課題の解決に向けては、農地の大区画・集約化に加え、スマート農業技術をはじめとした省力化技術の導入、新規就農者の育成や「農作業支援者」「地域農業応援者」の拡大、さらにはカントリーエレベーター等の共同利用施設の整備など、総合的な取り組みが必要である。
- J Aグループはオール山形の一員として、県が第5次農林水産業元気創造戦略に掲げる「人口減少に対応した生産性の高い農業経営と持続可能な農村の形成」に向けた取り組み、特に、今年が国際女性農業従事者年であることを踏まえ、働きやすい職場づくりと働く姿の情報発信等を通して、女性の就農者拡大を推進する。

2 取組内容

- 「地域の担い手」の省力化のためのスマート農業技術の導入に向けた取組み
 - ・スマート農業技術を活用する経営体への今後の導入計画づくりなどへの支援
 - ・スマート農業技術導入への支援（ドローンオペレーター育成や水田における水管理システム導入、営農管理・栽培管理支援システム導入）

【県内におけるスマート農業の先進的な取組み】

- ◆ 株式会社おしの農場（天童市高櫛）（山形県地域営農法人協議会会員）
 - 経営規模 125ha（水稲105ha、大豆20ha）
 - 経営主 代表取締役 押野和幸
 - 労働力 役員3名（本人、長女、次女） 社員5名
 - スマート農業技術 圃場管理システム、自動操舵トラクター、可変施肥対応田植機、収量測定機能付きコンバイン、ドローン
 - 特徴
 - スマート農業技術や乾田直播栽培による規模拡大
 - 長女、次女の経営参画（長女は経営部門、次女は栽培部門を担当）
 - 圃場管理システム（衛星画像データ）を利用したきめ細かな栽培管理
 - ◆ 株式会社山正（天童市寺津）（山形県地域営農法人協議会会員）
 - 経営規模 48ha（水稲38.9ha、大豆7.5ha、果樹・その他1.6ha）
 - 経営主 代表取締役 瀬野雄平
 - 労働力 役員3人（実質ワンマン）（繁忙期のみ臨時雇用延べ80日間）
 - スマート農業技術 圃場管理システム、自動操舵トラクター、可変施肥対応田植機、収量測定機能付きコンバイン、可変散布（肥料）ドローン
 - 特徴
 - スマート農業技術を駆使し、瀬野氏本人が実質ワンマンで48haの農地を管理
 - 圃場管理システム（衛星画像データ）を利用したきめ細かな栽培管理
- 「次代の担い手」の育成・確保に向けた取組み
 - ・山形県地域営農法人協議会（※）と協力し、東北農林専門職大学および附属農林大学校と連携した実務実習の受け入れや就職説明会などへの参画
 - ・J Aグループ山形公式Xでの実際の就農の姿の発信（右写真、QRコード参照）
 - 「農作業支援者」「地域農業応援者」の拡大に向けた取組み
 - ・農繁期におけるバイトアプリや外国人等を活用した働き手確保対策の推進（右QRコード参照）
 - ・半農半Xやライフスタイルに合わせて農業に関わる91農業などの推進

3 効果・今後の展望

【効果】

- 「地域の担い手」における省力化のためのスマート農業技術の導入に向けた取組み
 - 株式会社おしの農場
 - ・農林水産省のスマート農業技術に関する生産方式革新実施計画認定第1号
 - ・令和6年度全国豆類経営改善共励会 天皇杯受賞
 - ・スマート農業技術導入以降、経営規模が約35ha拡大。（R2:89ha⇒R7:125ha）
 - 株式会社山正
 - ・農林水産省のスマート農業技術に関する生産方式革新実施計画認定第1号
 - ・スマート農業技術導入以降、経営規模が約35ha拡大。（R2:12ha⇒R7:48ha）
- 「次代の担い手」の育成・確保に向けた取組み
 - ・令和7年度新規就農者数 405人 10年連続で東北一
 - ・県外出身新規就農者数 <R3>49人 <R4>47 <R5>56 <R6>75 <R7>92
- 「農作業支援者」「地域農業応援者」の拡大に向けた取組み
 - ・バイトアプリ「daywork」でのマッチング実績は年々拡大
 - ・<R3>3,181件 <R4>6,685 <R5>13,182 <R6>19,133

【今後の展望】

人口減少が続くなか、引き続き、県や関係機関と連携し、スマート農業等省力化技術の導入、「地域の担い手」「次代の担い手」「多様な担い手」の確保・育成、「農作業支援者」「地域農業応援者」の拡大に取組み、将来にわたって食料供給県としての本県の役割を維持していく。

（※）山形県地域営農法人協議会は、自らの法人経営の実践とともに、地域農業全体の維持・発展方策をも同時に探っていくことを目的に平成28年に設立した農業法人の組織。会員は214法人（令和7年11月末現在）。会員の経営面積は県内の農地面積の1割を占める。J A山形中央会が事務局を担当。



J Aグループ山形 公式X 株式会社おしの農場
J Aグループ山形 公式X 「daywork」



1 目的・狙い

- 山形県内の産・学・官・金・医が連携する「やまがた社会共創プラットフォーム（やまふら）」の活動を通じ、地域課題の解決と新たな価値創出に向けた取り組みを紹介し、“オールやまがた”のパートナーシップをさらに強固にし、未来を創造する新たな一歩となることを目指す。

2 取組内容

①「国立大学未来共創シンポジウム」の開催

“オールやまがた”のパートナーシップをさらに強固にし、未来を創造する新たな一歩となることを目指すために開催

日時：令和7年11月28日（金）13:00～16:00

会場：山形市 ホテルメトロポリタン山形

参加者：県内の自治体、企業、高等教育機関、金融機関などから104名

概要

- 基調講演「これからの地域経済と「やまふら」への期待」

経済産業省東北経済産業局長 佐竹佳典氏

- 実践報告「やまふら3部門の挑戦」

リカレント教育推進部門長／山形県商工会議所連合会常任理事 木村和浩氏

地域課題解決・価値創出部門長／山形県総務部高等教育政策・学事文書課長 齋藤満宏氏

高等教育機関連携部門長／山形大学教授（社会共創推進室副室長） 栗山恭直氏

②リカレント教育の実施

地域のニーズに応えるカスタマイズプログラムの「やまがた共創塾
地域産業コア人材育成プログラム」を実施

企業からの生徒の受入れ：令和7年度 32名

など

3 効果・今後の展望

- 当日実施したアンケートでは、参加された皆様から、「やまふらの3つの重点事項やこれまでの具体的活動、そして『新結合』を目指していること等理解することができた」、「行政的な視点で見て、今後の取組みを検討するにあたり大変参考になった」、など、多くの前向きなコメントが寄せられた。やまがた社会共創プラットフォームでは、今回のシンポジウムで得られた知見とネットワークを活かし、今後も地域の皆様と共に未来を拓く活動を推進していく。
- リカレント教育が企業の生産性向上や地域経済全体の活性化に貢献していくように、産学官金の連携により必要な財源を確保し、持続可能な「学びのシステム」へとさらに深化させていく。



1 目的・狙い

- 入学生の県内出身者割合を高める「**入口戦略**」、在学学生を県内就職に誘導する「**出口戦略**」、卒業生のUターン就職を促す「**Uターン戦略**」を行うことで、在学学生・卒業生の県内での活躍につなげていく。

2 取組内容

○入口戦略（入学生の県内出身者割合を高める取組）

- ① 県内定着に繋がりやすい県内出身の入学者数を増やすため、県内高校からの学校推薦型選抜の入学定員枠を設定した。
- ② 将来の職業として看護師を目指す動機付けを図るために高校生に対する「看護体験セミナー」の実施した。 など

○出口戦略（在学学生を県内就職へ誘導する取組）

- ① 本学で開催した合同就職説明会（キャリア支援セミナー）において、学生の地元医療機関への理解向上および医療施設における待遇・労働条件改善を促す効果を狙い、参加施設が一同に会する新たな形式で実施した。これまで、学生が説明を受けられる医療機関は4施設程度に限られていたが、今回の開催形式の見直しにより、より多くの施設から説明を聞くことが可能となり、学生・施設双方から好評を得た。
- ② キャリアセンターの人員を増員し、体制・機能の両面から強化を図った。

○Uターン戦略（卒業生を県内就職へ誘導する取組）

- ① 卒業生にEメールで、県内医療機関の中途採用情報を提供した。
- ② 今後、卒業生を対象としたSNSを開設し、採用情報をタイムリーに提供する。 など

3 効果・今後の展望

- **効果**として、(i)令和6年度の看護学科の県内定着率が前年度比で約10%向上した。(ii)キャリア支援セミナーの実施により、九州出身の学生が山形県内への就職を選択する事例などが生まれている。(iii)アメリカおよび台湾との国際交流を通じて、英語での質疑応答を物怖じせず行える学生が育ってきている。(iv)大学院修士課程への特に看護学科卒業生（県内出身者）の進学者が急増している。
- **今後の展望**としては、拡充したキャリアセンターが中心となり、①卒業生のUターン就職に関する相談対応を行う。②地元定着において成果を上げている他大学の事例を収集・分析し、県内定着に向けた対策の改善・充実を図っていく。

県内医療を支える人材育成に向けた全体像

（「2 取組内容」に記載したものに加え実施しているもの）

入学生の県内出身者割合を高める取組

- 3学科（看護・理学・作業）の国家試験合格率100%を達成
- 医療系大学を希望する高校生に、本学の教育内容への理解を深めてもらうための本学の授業体験の実施

入口
戦略

- 県内で活躍する卒業生を紹介するパンフレット「山形で輝く先輩たち」の作成
- 学生が、県内の実習施設以外の医療機関を訪問し、実際の業務に触れて、県内の地域医療について理解を深める地域医療体験セミナーの実施
- 県内で働くことの魅力を理解する卒業生との交流会の開催

県内医療を
支える人材
の育成

- 開学以来の卒業生全員に対し、現在の勤務先、居住地等を調査する卒業生実態調査の実施

Uターン
戦略

出口
戦略

卒業生を県内就職へ誘導する取組

在学学生を県内就職へ誘導する取組

山形に居ながら国際レベルの持続可能な医療を提供できる人材育成の試み

- 大学院教育の強化・進学への奨励、海外大学との交流、英語文献を基盤とした卒論の作成、学会発表の推進
- ナショナルセンターや他大学大学院の卒業生を地元に戻し質を高める

1 目的・狙い

- 大学の魅力を伝え、高め、広く還元することにより、大学のブランド力・認知度を向上させ、県内外から学生を呼び込む
- 学内外において、魅力的な地域や人との接点づくりを強化し、地域活力の向上にも貢献。「地域に関わり続けたい」という思いを醸成することで、学生の県内定着につなげていく

2 取組内容

- 大学の魅力向上に向けた取組み
 - ・ 米沢女子短期大学魅力向上検討会議（外部有識者・地域関係者）から、「学生目線による情報発信の強化」と「カリキュラムや学外活動における地域との連携の深化」が重要との提言
 - ⇒ 両大学で共有し、地域と連携した取組みを積極的に発信するとともに、更なる取組みを検討

- 学生と地域の接点づくり

【地域に関わる学びの場の提供】

- ・ 産学官が連携し、地域活動・学び・仕事をテーマにしたワークショップを開催
置賜地域3大学の学生と地元の若者が交流しながら地域課題解決に向けた意見交換等を実施
- ・ 米沢女子短期大学と地元菓子店が産学連携し、「館山りんごを活用したスイーツ」を共同開発

【地域に関わり貢献する学生活動の促進】

- ・ 米沢栄養大学の学生が企画・運営・講師を務める、食育に関する出前講座の実施
- ・ 学生サークルによる地元サッカースポーツ少年団への食育講座の実施
- ・ 米沢駅イベント「おしょうしな駅まつり2025」での花笠披露



地元若者とのワークショップ



館山りんごスイーツ共同開発



食育に関する出前講座



おしょうしな駅まつり

3 今後の展望

- 両大学が連携し、情報発信・広報活動と地域連携・地域貢献を総合的に推進していくための学内体制を整備していく
- ボランティア活動などの学生の様々な地域活動を促進するとともに、その活動の様子を学生自らが学生目線で発信する取組みを推進していく

1 目的・狙い

1. 地域活力の創出（リカレント講座「夏芸大」の運営）
2. 関係人口増加（超実践教育の継続と学生の県内居住促進）
3. 交流人口増加（「学科再編」による”山形産“次世代人材の育成）

2 取組内容

1. 「夏芸大」…社会人のリカレント・リスキングを目的としたアート&デザイン講座を小中高校生・親子向けにも拡大し、地域の芸術大学でクリエイティブを学ぶ機会と体験価値を提供
2. 「産学連携事業による超実践教育」…地元企業や行政など社会が抱えるリアルな課題をクリエイティブの力により解決することを本学の教育の題材とし、学生が地域社会と連携することで地方都市のポテンシャルや魅力を発見する機会を提供、学生の県内居住に寄与
▼2025年度の事例
写真①:生活協同組合共立社公式キャラクター提案・採用（グラフィックデザイン学科）
写真②:天童市「高掬の水」活用企画提案プレゼン（企画構想学科）
写真③:子育て支援施設クラッピン寒河江での子ども向けワークショップ（美術科総合美術コース）
3. 「学科再編」…2026年度より「キャラクター・ゲームコース」、「食文化デザインコース」等を新規開講。食文化デザインコースでは、山形ならではの食文化を基盤に「食と地域」、「食とメディア」、「食とビジネス」等を多面的に学び、食の未来を創造し地域から世界へ文化を発信する人材育成を目指す

3 効果・今後の展望

- クリエイティブ教育の実績を活かした多様な世代への「学びの場」の供給により地域還元を促進していく。
- 地域課題解決のための産学連携事業への積極的な参画により学生が地域の魅力を発見する機会を創出していく。
- 食文化デザインコースを始めとする次世代に向けた全19学科コース運営によりクリエイティブ人材を育成するとともに人的交流を創出していく。

夏芸大の様子1



夏芸大の様子2



写真②



写真①



写真③

2026年度 学科/コース案内



食文化デザインコース イメージ

1 目的・狙い

- 失敗を恐れずに踏み出し、新たな価値を見出し、創造していくマインド（アントレプレナーシップ）の重要性の高まりの中、起業マインドを有した人材（予測困難な時代においても挑戦をためらわない人材）を育成し、地域の活性化と課題解決に寄与していくもの。

2 取組内容

令和5年度：シンポジウム開催 6年度・7年度：山形県寄附講座

- 起業（ぎょうをおこす）は、会社を起こすこと（創業）だけを目的としたものではない。
- 自治体や地域の企業などにおいて、新しいサービスや制度を創出し、既存の活動を革新する取組も含まれる。
- 地域交通、福祉、教育、環境といった多様な分野への取組や社会課題の解決を視野に入れた企業経営など、時代の要請に対応していくためには、「構想力」と「実行力」に長けた起業マインドをもつ人材が求められる。

高校生を対象としたアントレプレナーシップ育成講座（令和7年度）

- 公益大生がメンターとして高校生を伴走支援する育成講座（6月～1月：講義(4回)61名、構想検討(2回)40名、コンテスト2名）

3 効果・今後の展望

- グローバルなアントレプレナーシップの展開
 - ・ 国際学部新設を契機に、グローバルな交渉術や、文化、習慣、価値観の違いを踏まえた事業構想を体験的に学習し、地域課題にグローバルな視点からチャレンジする人材を育成していく。
- シームレスなアントレプレナーシップ育成
 - ・ 大学生による高校生向け伴走支援を拡充（本学への入学と学びの高度化を期待）するとともに、社会実装を目指す大学生に対して産学官連携によりスタートアップを支援していく。

東北公益文科大学 起業研究所 since 2023.11

公益大で展開している

起業マインド育成プログラム



1 目的・狙い

- 卒業後も地元就職し活躍する人材（エッセンシャルワーカー）の育成と安定した供給を通じて、地域の子育てや老後に安心感を与える。
- 女性の働き場所を保障することにより県外流出を止めて人口減少に歯止めをかける。

2 取組内容

- ① インクルーシブ教育力やダイバシティー対応力を有する小学校教員及び保育・福祉関係者の養成により、人材不足の解消に努める。
- ② 進路ガイダンス（1年次から4年次）の充実により、県内企業等の魅力を理解させ、卒業後の定着を図る。

【内容】

- ・ 希望職種の人材担当者による模擬面接を含めた県内企業研究会の開催
 - ・ 「インターンシップ」参加へのハードルを下げるための体系的な支援を実施
- ③ 県・市町村や県内企業等と協働の学生生活動の推進により、地域とのつながりや活躍の場を認識させる。



県立図書館の子ども読書活動推進講座における活動

3 効果・今後の展望

- 入学者の減少に歯止めをかける必要があるため、県内大学進学者への支援金事業の認知度を高めていく。
- 県内企業等とより一層の連携を図り、企業研究会を充実していく。

1 目的・狙い

- 山形県は、若者が減少し、高校生活を終えた後もう二度とこの地域に戻らない若者も多い。
- そうした状況を踏まえ、高校生がこの地域を愛し、この地域の人を愛し、住んでいても住んでいなくても、故郷が大好きだと自信を持って言えるようになってもらうために、地域の企業や青年経済団体と持続可能な地域づくりのために取り組んでいる。地域を想う大人たちと運動し共感することで、地域の行政や政治、自分たちが経験してきた事業、これからの地域社会の在り方を今まで以上に自分事として捉え、自らの手で人生と地域社会を切り拓く人材を育成する活動を促進していく。

2 取組内容

個別の取組みとして、新庄東高等学校の例を紹介する。

A：戸沢村長選挙立候補予定者による公開討論会

戸沢村長選挙立候補予定者の公開討論会を選挙権のない高校生が聴くことで、

- ①選挙を自分事として捉える
- ②選挙権を持ったときに選挙に行くという気持ちを醸成させ、地域の行政・政治を自分事として捉える

B：新庄雪まつり

地域で50年以上、コロナ禍でも中止にすることなく続けてきたまつりに、運営側として参画することで、参加していた自分と運営する側の自分両側面でもつりを経験し、地域の大人の想いを継承し、郷土愛を育む

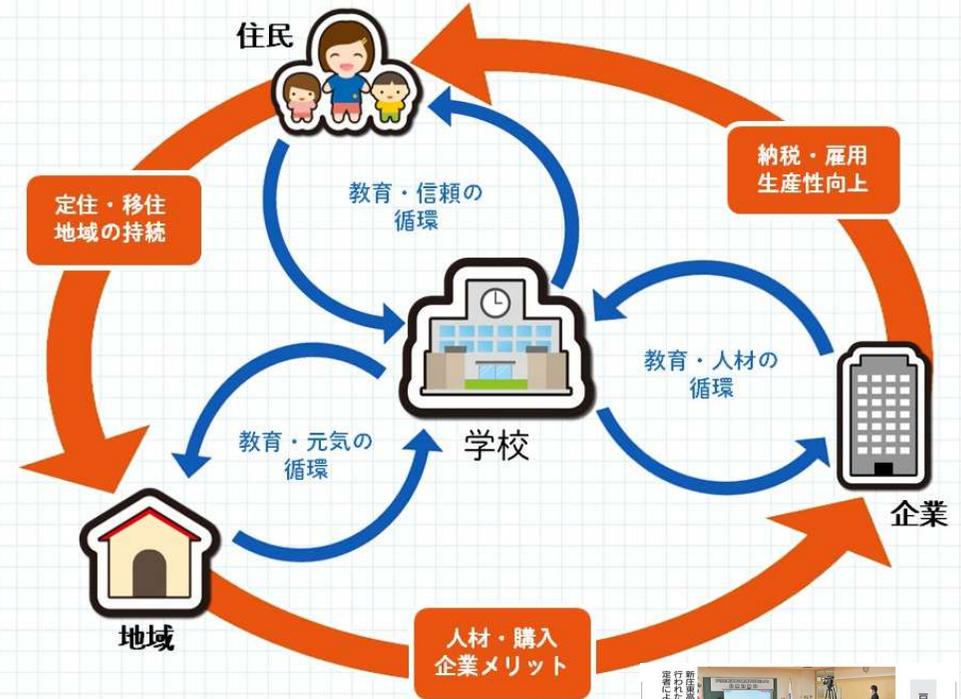
C：日本青年会議所山形ブロック大会新庄大会（大会にて新庄もがみの中期ビジョン策定）

今後5年の地域の中期ビジョンを大人と共に考えるうえで、様々な側面から地域を俯瞰し、本当にこの地域に何もないのか、地域で生きる大人たちと共に未来を想像することで、自分自身と地域が共にある未来を考える

➡ 3つの事業を共に新庄青年会議所と行うことで持続可能な地域づくりへ繋げる

3 効果・今後の展望

- 公開討論会を高校生が聴講したことは新しいことで、メディアにも多く取り上げられた。新庄もがみ地域の高校生が今まで誰もしえなかったことをしていることは地域の子供や大人たちにとってとても興味深く、刺激的な活動だった。
- 新庄雪まつりでの活動は、地域の高校生が楽しもうとする姿勢を発信できた。地域の大人たちが地域をあきらめている雰囲気がある中で、明るい青少年がいる未来を想像させることができた。
- 中期ビジョンの策定について、発表の資料を山形県議会議員や新庄市議会議員に求められた。地域を動かす政治家や大企業の方々に高校生が考える中期ビジョンはととても喜ばれ、高校生の「価値」を高められた。



各メディアでも取り上げられ、自分がしてきたことがニュースになる価値を感じ、更なる意欲が出ました

質問者は高校生
新庄 少子化や雇用、課題議論
戸沢村長選挙討論会
新庄東高等学校
新庄もがみ地区の未来を共に考える機会が得られた。新庄もがみ地区の未来を共に考える機会が得られた。新庄もがみ地区の未来を共に考える機会が得られた。

私学総連として、各校が特色ある取組みを積極的に実践・共有することで、地域と、地域の人と共に生きていきたいという想いを醸成していきたい。

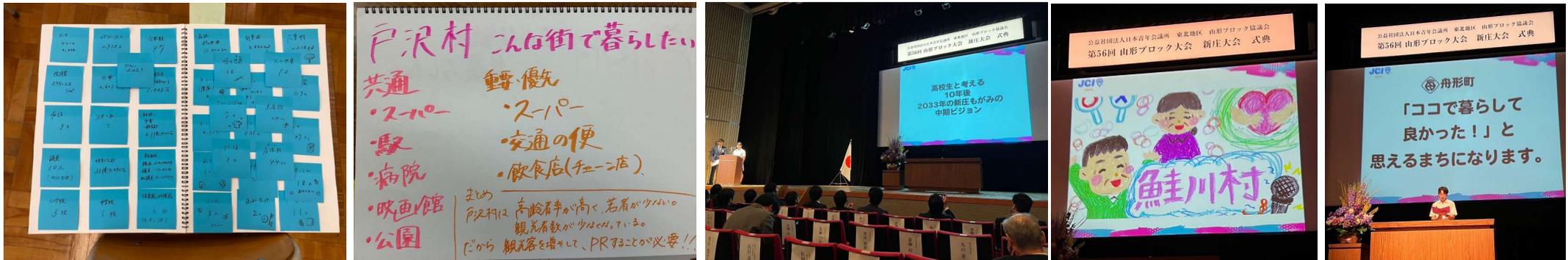
戸沢村長選挙立候補予定者による公開討論会



第52回新庄雪まつり



日本青年会議所山形ブロック大会やまがた大会にて中期ビジョン策定



1 目的・狙い

- 子供たちの健全な成長と幸福を願い、家庭・学校・地域が連携してより良い教育環境を築く。
- 子供たちが未来を生き抜く力や自らの地域を大切に思う心を育てていくことで、ふるさと山形への誇りと愛着を深めていく。

2 取組内容

◎第77回山形県PTA研修大会新庄・最上大会（令和7年10月18日）

①大会主題『ウェルビーイング ～子供・家庭・地域のしあわせのために大人が変わる』

②基調講演「子供の邪魔をしない教育と、次の社会のためのヒント集」

③分科会1：「自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ」

分科会2：「一人一人の居場所がある学校にするために」

分科会3：「子供を守り、育てる地域コミュニティ」

* 3つの分科会では、それぞれのテーマに沿って活発な意見交換が行われ、参加者同士の対話が
大いに盛り上がりました。

◎第78回山形県PTA研修大会山形大会（令和8年10月17日予定）

①大会主題「育もういのち輝く子供たち ～ウェルビーイングを目指して みんなでチャレンジ～」

②基調講演と2分科会を予定

第77回山形県PTA研修大会
新庄・最上大会



3 効果・今後の展望

- 人口減少が進む中でも、地域の未来を担う人づくりを進めるため、他の地域でも研修大会を開催し、郷土愛の醸成に一層力を注いでいく。

1 目的・狙い

- 金融仲介機能を発揮し、県内企業の成長を支援するとともに、人口減少による後継者不足や人手不足等の課題解決に向けた支援を行うことにより、地域経済の持続的発展を目指していく。

2 取組内容

- 事業継承支援
県内企業の後継者不足解消に向けた、事業承継やM&Aなどを担う専門的部署、専門的人材の配置による、より高度なコンサルティングを提供。
- 人材紹介・人材マッチング支援
県内企業の働き手不足に対する支援として、人材紹介会社との業務提携などによる人材紹介・人材マッチングを実施。
- 生産性向上支援
少ない労働力でも業務を継続していくための、デジタルの活用や新たな技術の導入等に係る側面支援の充実。



3 効果・今後の展望

- 県内企業の成長や課題解決に向けた支援を充実していく。

1 目的・狙い

- 人口減少問題に対しては、多面的な取り組み・対応が求められている。そのため、各方面の関係者に参加を呼びかけて、色々な見方・考え方を交流することで、新たな気づきや学びの習得が期待される。

2 取組内容

①テーマ

人口減少社会における地域づくりフォーラム（仮称）

②時期・会場

令和8年9月～10月、大手門パルズ（予定）

③企画内容

基調講演やパネルディスカッションなどを想定。

産官学金労言の各方面に参加を呼びかけ、それぞれの問題意識や取り組みなどについて交流を図る。多様な意見に触れることで、参加者の知見を深めその後の活動へ活かしていく。

参考：イメージ写真



3 効果・今後の展望

- 開催後も、適宜参加団体（者）との情報交換等を図り、連合山形の制度政策要求やシンクタンクの調査研究などに活かしていく。

1 目的・狙い

- ロールモデルの提示や勤務環境情報の見える化により、若年層や女性の医師の定着を図ると共に、令和6年度にスタートした医業承継支援事業を強化し、後継者不在の診療所の承継を促進することで、地域医療提供体制の維持・充実を図り、県民が県内で安心して暮らせる環境づくりを推進するもの。

2 取組内容

- (1) 若手・女性医師、医学生への支援
 - ①「やまがたスマイル☆ドクター応援ステーション」の設置
 - ・各医療機関のWLB施策を一元化したデータベースの構築【新規：R8】
- (2) 医業承継マッチングの促進
 - ①DX活用による事業周知、マッチングサイトの新規登録促進
 - ・Web広告（Yahoo!、LINE）を活用した情報発信【新規：R7.11月～】
 - ②専門家による支援体制の充実強化
 - ・オンラインやセミナー開催を活用した個別相談体制を構築【新規：R8】

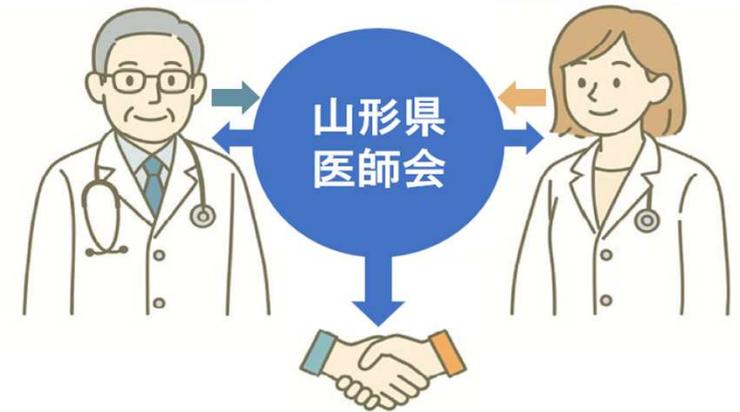
3 効果・今後の展望

- 令和7年1月の医業承継マッチングサイトの開設以降、希望医師の登録数は着実に増加してきており、本年1月に「マッチング第1号が成立」したことにより、その波及効果として医業承継の加速化が期待される。
- 両事業共に山形県からの協力・支援を頂きながら取り組んできており、更に連携を密にして成果の向上を図っていく。



後継者不足

承継希望



1 目的・狙い

- 地域共生社会を実現するため、社協や行政職員、民生委員、ボランティア実践者等の様々な立場の地域福祉関係者が集まり、孤独・孤立の防止や必要な取組みなど、県内の地域課題をともに学び合い、その解決策等について意見交換や情報交換をすることにより、右図のような仕組みづくりを意識啓発していくことが重要である。

2 取組内容

○ 地域共生社会推進会議の開催

①日時・会場

令和8年2月27日（金）12:45～15:30（天童ホテル）

②参加者 市町村社協・行政・民協・社会福祉法人職員等

③テーマ「つながりや支え合いで孤独・孤立を防止する」

④内容

- ・ 基調講演「みんなで取り組む地域共生社会（仮）」
- ・ 分科会（3分科会）

テーマ①「地域の中で居場所やつながりをつくり、孤独・孤立を防止する」

（パネルディスカッション）

テーマ②「孤独・孤立になりがちな人々の実態を探り、必要な支援を考える」

（座談会方式）

テーマ③「孤独・孤立を感じないように、子どもをきっかけとした多様つながりをつくる」

（座談会方式）

3 効果・今後の展望

- このような場を通じて、県内における実態や課題、その防止策等の取組みを共有・協議し、人と人との多様なつながりや地域住民がともに支えあう大切さ、地域共生社会の重要性をみんなで考える機会として、毎年開催していく。

イメージ図にすると…

③地域の専門機関との連携のしくみ

行政・社協・地域包括支援センター・病院
福祉施設等と協働体制

②地区でのたすけあいのしくみ

家事支援・外出支援・家屋修繕など、専門性のない（住民でできる）比較的軽微な援助・支援

①近隣の見守りのしくみ

近隣住民・ボランティア・民生委員児童委員・福祉推進員等による声かけ、見守り、近隣の軽微な助け合い

④住民有志による有償無償を問わない地域活動のしくみ

NPO、住民参加型在宅福祉サービスなど

これが地域共生社会実現の1つの手段である「地域福祉」の代名詞
小地域福祉ネットワーク活動の4つのしくみになります

1 目的・狙い

- 多様な人材活躍の観点から、これまでは男性の割合が高かったシルバー人材センターの取組みに、女性会員の拡大を図っていくことで、女性会員の元気を地域に還元していく。

2 取組内容

- 女性会員の拡大を目指すための取組み
 - 1 広報誌「やまがたシルボンヌnetwork(ネットワーク)」の発行
 - ・ 本年度から毎月発行。女性会員を中心とした活動を紹介。
 - 2 やまがたシルボンヌnetwork交流大会（女性会員交流大会）
 - ① 日時・会場：令和7年11月20日 やまぎん県民ホール
 - ② 参加者：県内シルバー人材センター女性会員及び役職員
 - ③ テーマ：女性会員が一堂に会しての交流活動（初開催）
 - ・ 思いやりの心をテーマにしたセミナー
 - ・ 参加者全員による即席合唱

3 効果・今後の展望

- 女性会員入会割合が高まることで、学童保育保育補助業務などの就業機会や会員交流活動の多様化が促進され、シルバー事業全体の活性化が見込まれる。
- 今後は、会員主体のサークル活動などの独自事業の広がりを促進し、高齢者が地域で生きがいを感じながら暮らせる社会づくりを目指していく。



1 目的・狙い

- 多様な生き方や働き方で誰もが自分らしく輝ける山形県を目指して、アンコンシャスバイアスの解消などを目指す。

2 取組内容

○ 男女共同参画推進員出前講座

①日時・会場

公民館、学校、地域団体、サークルなど**主催者からの要請により、最適な推進員を派遣**（1か月前までに申込み）

②テーマ（例）

- ・男女共同参画ってなあに？
- ・ワークライフバランス
- ・DVやデートDVについて
- ・男性の育児休業 など

※ 主催者の要望、地域課題などご相談に応じます。



推進員の講演とワークショップによる出前講座（舟形町 R7.11開催）
老若男女が「ジェンダーカード」に示されたテーマについて楽しく意見交換。学びを深めた。

3 効果・今後の展望

- 出前講座は、地域団体等を中心に年間15件程度の開催。**今後、企業・事業所への派遣に注力していく。**

【令和7年度】イクボス同盟企業などへPR。**事業所等で2件の開催を予定。**

企業・事業所派遣へ向けた推進員研修会を開催。

- 今後も**研修を重ねスキルアップを図りながら要請に応じていく。**

ご活用・ご協力をお願いします！

1 目的・狙い

- 県内にお住いの外国出身者と地域住民との伝統文化体験と対話・交流をテーマとする交流イベント等を通して、互いの文化や考え方の違いを理解し、交流を深めることにより、外国出身者も地域住民も互いに住みやすい多文化共生の社会づくりを推進する。

2 取組内容

(1) 外国出身者との「みそ作り体験」交流イベント

- ①日 時：令和7年6月14日(土) 14:00～16:00
- ②場 所：山形県国際交流センター研修室
- ③参加者：県内在住外国出身者及び県内高校生(山辺高) 25名
- ④内 容：「みそ作り体験」及び「交流会」

(2) 外国出身者との「餅つき体験」交流イベント

- ①日 時：令和8年2月14日(土) 14:00～16:00
- ②場 所：山形県国際交流センター研修室
- ③参加者：県内在住外国出身者及び地域住民 約20名
- ④内 容：杵と臼による「餅つき体験」及び「交流会」



みそ作り体験



交流会

3 効果・今後の展望

- 県内在住の外国出身者と地域住民とが一緒に交流できる場を提供することにより、相互理解が深まり、外国出身の皆さんにとっては山形県民と交流する機会となった。また、参加した地域住民の皆さんにとっては、県内在住の外国出身の方と交流することにより、国際理解が図られ、本県の多文化共生社会づくりの推進につながった。
- 今後もこのような外国出身者と地域住民との交流機会を引き続き設けることにより、お互いに地域社会の一員として、共に活躍できる多文化共生の社会づくりを推進していく。

1 目的・狙い

- 県議会では、選挙権年齢の引下げを契機に、学生等の若者に県議会を身近に感じてもらうため、平成28年度から「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」を開催しているが、令和6年度からは、対象を拡大し、新たに20代、30代の多様な層を対象とした「女性・若者との意見交換会」を開催している。
- こうした取組みを通して、持続可能で明るい山形県の未来づくりに寄与していく。



2 取組内容

令和7年度 女性・若者と県議会議員との意見交換会

- (1) 日時 8年1月23日(金)
- (2) 参加者 株式会社ハッピージャパン(山形市)の若手社員9名(県議会議員6名)
- (3) テーマ ①若者にとって魅力的な企業
②山形で暮らすことの魅力



3 効果・今後の展望

- 意見交換を通して、参加者から、県議会・県議会議員を身近に感じてもらうとともに、山形県の魅力に新たに気づき、再発見してもらうことができた。また、議員は、若者ならではの意見に接する良い機会となった。
- 「身近な県議会」の活動の一つとして、女性・若者の県議会への関心を喚起するとともに、傍聴や投票、立候補といった県議会への一層の参画促進に向け、県民との共創に資する取組みとして、令和8年度も継続して取り組んでいく。

1 目的・狙い

- 若者の地元に対する誇りと愛着、職業観を醸成し地元定着につなげる。
- 地元で働く女性が更なるキャリアアップを目指すきっかけを提供。
- 性別や年齢にかかわらず、その人らしく生きられる地域をすることで、若者・女性の社会減を抑制する。
- 若い世代が住みたいと思うまちの魅力を掘り起こし、見える化することで、若年層転入増を図る。

2 取組内容

(各市の主な取組み)

- 1 山形市若者定着促進事業（山形市）
若者・女性を対象とした「山形市で働き・暮らす」ビジョンを可視化し、生成AIを活用しながら解決のアイデアを探求するワークショップを開催。
- 2 女性向け つながる広がるキャリアupセミナー（米沢市）
キャリア開発のための講義とグループワークの実施。働く女性同士の情報交換やネットワークづくりのための交流。
- 3 「日本一女性が働きやすいまち」「若者や女性に選ばれる地方」に向けた取組み（酒田市）（別紙参照）
- 4 山形大学との連携（上山市）
大学の社会共創デジタル学環と連携し、市の現状を踏まえた、若者が住みたいと思うまちの魅力等について思索及び討論を行う。
まちづくり活動に取り組む団体等との意見交換。



山形市若者定着促進事業（未来創造ワークショップの様子）

3 効果・今後の展望

- 各事業とも地元定着に向けた機運醸成に一定の効果があった。
- 各市の取組みについて情報共有を図ることにより、さらなるアクションを促進していく。

持続可能で明るい山形県の未来に向けたアクション

【酒田市】

1 目的・狙い

- [1] 若者・女性に魅力的な仕事（待遇・職種・働き方・やりがい）の創出
- [2] 若者・女性に選ばれる職場（≒ 日本一女性「誰も」が働きやすいまち）の実現
- [3] 家庭・地域におけるジェンダー平等の推進、固定的性別役割分担意識の解消
- [4] 若者の活躍を応援する風土の醸成

2 取組内容

（酒田市の主な取組み）

[1] 情報サービス業など若者に魅力的な成長産業の企業立地の伴走支援及びIT人材の育成

- ① 山形県と連携した情報サービス業（≒ IT企業）の賃借型立地への物心両面の支援
- ② サンロクIT女子育成プロジェクトによるIT人材の育成及び市内中小企業のデジタル化

[2] えるぼし認定など働きやすさの証しとなる各種認定の取得及び行動計画策定に対する伴走支援

- ③ 市内企業の「えるぼし」「くるみん」「ユースエール」の各認定取得に向けた人材活躍支援員などによる伴走支援、一般事業主行動計画を策定した企業（努力義務企業）への奨励金の交付
- ④ 働く酒田イノベーション戦略（仮称）の策定（学生・働く方・経営層が一堂に会する、働きやすい職場を考えるワークショップの開催）

[3] 家庭における家事シェアの推進、地域における男女共同参画の意識啓発

- ⑤ 家事シェアチェック宣言及びセミナーを通じた家庭・地域での行動変容の促進

[4] 若者の活躍を応援する風土の醸成

- ⑥ 若年層による地域課題解決の取組みを物心両面で支援する「コミュニティファンド」の設立支援

3 効果・今後の展望

- | | |
|---|---------|
| [1] IT企業（情報サービス業）の立地 8件・計563名の雇用創出[2019~2024] | ▶ 一定の成果 |
| サンロクIT女子の実稼働者数及び業務受注額 64名・24,361千円[2024] | ▶ 一定の成果 |
| [2] えるぼし[10社（日本一）]、くるみん[5社]、ユースエール[8社]の各認定の取得 | ▶ 増加傾向 |
| 職場における男女の不平等を感じる市民の割合 59.3%[2022] → 39.1%[2024] | ▶ 大幅な改善 |
| 男性を100とした場合の女性の給与収入の水準 59.2[2014] → 65.5[2024] | ▶ 改善傾向 |
| [3] 家庭における男女の不平等を感じる市民の割合 59.1%[2022] → 41.1%[2024] | ▶ 一部改善 |



若者・女性に選ばれる酒田
Since 2005
Sakata City

深化・発展

日本一女性が働きやすいまちを目指す！



1 誘致IT企業 第一期生 内定式



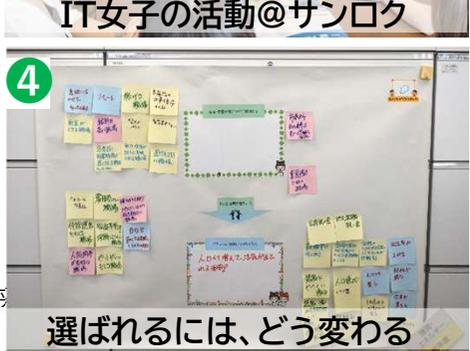
2 IT女子の活動@サンロク



3 ジョカセ★第二弾
メカニック 建設業界初」の取得 17:02



4 選ばれるには、どう変わる



5 家事シェア チェック宣言



6 酒田コミュニティ財団
Sakata Community Foundation



✓ [1]~[3]の成果・改善はあるが、20代女性は156人[2024]の転出超過、進学・就職で転出する新規高卒者は約85%と推計、若年層の社会減は抑制されていない。

✓ 今後は、既存の取組みを深化させるとともに、新たに、市内企業が若者・女性に選ばれるよう、働く酒田イノベーション戦略（≒参考書）を策定し、好事例の横展開などを伴走支援するなど市と企業が一丸となった取組みを深化・発展させていく。

1 目的・狙い

- ① 町村職員による地域づくりの支援
～地域力や地域との関わりの向上～
- ② 町村内外の方と協働するまちづくり
～住民主体のまちづくりや学生との協働～
- ③ 町村への移住定住・回帰の促進
～移住定住支援や若者ふるさと回帰～
- ④ 町村職員による主体的取組を応援
～町村会による職員向けセミナー～

2 取組内容

- ① 【三川町】コミュニティ活動支援員派遣
・町内会や町内団体の求めに応じて町職員や識見者を派遣し、地域コミュニティ活動の活性化を支援
【大江町】子育て応援訪問
・自宅保育中の家庭を保育士が訪問し、悩みを聞き相談助言や関係機関を紹介
- ② 【川西町】川西町まちづくり委員会
・外部委員(地域づくり、産業、教育、生活福祉、公募など19名)による町総合計画への意見
【河北町】児童動物園を通じた郷土愛醸成
・小中学校での探求学習、学生とのコラボ企画、救護動物の学習と体験イベント
- ③ 【最上町】移住定住促進コーディネーター“もがさぼ”
・町内民間企業に総合窓口を委託し、各種事業と手厚いサポートを実施
【遊佐町】若者ふるさと回帰支援
・首都圏で若者向け交流会イベントを開催(町の最新情報、繋がり再構築、Uターンの機運醸成)
- ④ 【町村会】持続可能な地域づくりセミナー(講師：藤山浩氏)
・講演(町村職員約100名)
セミナー(町村職員約30名×3回)
～各町村の人口診断、地域関係図、地域経済循環の創出を実習～

3 効果・今後の展望

- ①②③ 各町村においては、地域との繋がりやまちづくり・郷土愛への関心を深めるとともに、若者等の移住定住・ふるさと回帰に効果的な取組みを実施しており、今後も各町村の独自性を発揮した事業展開とその成果を期待したい。
- ④ 町村会においては、各町村からの要望を踏まえて研修等を更に充実し参考情報を適時提供することにより、各町村の持続可能な地域づくりの取組みを応援していく。

① 三川町



② 河北町



③ 遊佐町



④ 町村会

